

指定管理者管理運営状況評価

施 設 名	千葉県袖ヶ浦福祉センター
指 定 管 理 者	社会福祉法人千葉県社会福祉事業団
指 定 管 理 期 間	平成 23 年度～平成 27 年度
評 価 対 象 年 度	平成 27 年度上半期（4 月～9 月）
第三者評価の有無（今回）	有
施 設 所 管 課	健康福祉部障害福祉課

1 施設の設置目的等

設 置 目 的	知的障害者及び知的障害児の福祉の向上
指定管理者が行う業務の範囲	① 障害者支援施設の業務 ② 福祉型障害児入所施設の業務 ③ 外来患者の診療及び訓練 ④ その他センターの目的を達成するために知事が必要と認める業務

2 施設の運営状況

年度	利用者（人） ※ 1	事業費等の内訳（千円）					
		指定管理料 (A)	その他維持 管理費(B)※ 2	利用料金 (C)	事業費総額 (A+B+C)	使用料等 県収入(D)	県の収支 (D-A-B)
24	72,442	759,561	0	686,106	1,445,667	1,933	△757,628
25	73,862	766,374	46,194	739,514	1,552,082	1,937	△810,631
26	69,972	780,485	60,988	673,994	1,515,467	2,036	△839,437

※1 カウント方法：入所、短期入所、日中一時支援、通所及び通院の延人数

※2 維持補修費、委託料、工事請負費、備品購入費（指定管理料に含まれるものを除く）

3 管理運営状況評価

評 価 項 目		評価	評 価 理 由 等
管理業務の実施状況に関する事項	施設の設置目的・法令等の遵守等	A	・昨年度から、虐待防止委員会（権利擁護委員会）に外部の支援に精通した者や家族代表を登用し、職員との懇談会を実施する等、人権擁護・虐待防止体制の強化に向け、継続的に取り組んでいる。 ・平成 27 年度から虐待防止委員会を権利擁護委員会に名称を改め、幅広く権利擁護やサービス向上について検討する場としている。
	安全性の確保	A	・現場の職員会議から理事会など様々な会議や委員会において事故等の発生状況を共有して、再発防止策等についても検討するなど、継続的に取り組んでいる。
	適切な管理運営		

評 価 項 目		評価	評 価 理 由 等
	適切な財産管理		
事業の企画運営に関する事項	事業の実施 (必須事業)	B	・利用者・保護者の意見を聞き、移行ワーキングチームの助言等を得ながら、利用者の移行に取り組んでいる。
	サービスの向上 自主事業 地域の連携等	A	・個別（入所）支援計画作成やモニタリングに保護者や医療職等が参加するよう努めている。 ・保護者との連携強化、保護者への情報発信の充実に努めている。 ・利用者の生活の質の向上に向け、地域社会への外出機会の確保に努めている。
施設利用状況に関する事項			
管理運営体制		A	・応援職員の配置など、応援・協力体制の充実に努めている。 ・グループディスカッションの実施や施設長の巡回時の職員との対話などにより、風通しのいい職場環境の構築に努めている。 ・医療職と支援員の連携が進んでいる。 ・参加型の研修や保護者とともに他の施設を見学する研修など、充実した研修の実施を図っている。
収支状況			
利用者意見の反映 利用者満足度		B	・多くの項目で保護者が満足を感じる割合の増加、又は不満を感じる割合の減少がみられ、「最近１年間でサービスの質の向上」を約７割の保護者が評価している。
総 合 評 価		一部 良好 でない	

特記事項	特に評価される点	<p>○事件以降の見直し・改善の取組みが様々な形で表れつつある。</p> <p>○グループディスカッション等により、職員同士が意見交換しやすい雰囲気醸成に努め、若手職員が明るく前向きに頑張っている姿がうかがえる。</p> <p>○保護者会役員会と職員の合同会等、保護者との関係強化・開かれた施設づくりに取り組んでいる。</p> <p>○アンケート（満足度調査）において、昨年度と比較して多くの項目で保護者が満足を感じる割合の増加、又は不満を感じる割合の減少がみられ、「最近１年間でサービスの質の向上」を約７割の保護者が評価している。</p>
------	----------	--

	<p>次年度に向けて改善が望まれる点</p>	<p>○事件以降、トップダウン型で見直し・改善に取組みその成果があがってきているが、一層の見直しに向け、ボトムアップ型での見直し・改善の取組みを併せて行うこと。</p> <p>○目的を明確にして支援の意味を共有できるよう取り組むこと。</p>
	<p>前年度評価で改善が望まれると指摘された点とその改善状況</p>	<p>昨年度改善を要するとして指摘した点（利用者ニーズを踏まえ長期的なビジョンに基づいた具体的な個別（入所）支援計画の作成と支援、利用者の障害特性や生活状況に応じた支援と環境整備の充実、職員間の情報共有・相談報告体制の強化、保護者・外部機関等との連携強化）については一定の改善が図られ、現在も継続的かつ積極的に改善に取り組んでいる。引き続き、改善した内容の再検証等により、取組みの強化や内容の拡充等、更なる発展に努めること。</p> <p>今後も、外部・地域との連携を強化して開かれた施設とし、サービスの質の向上と支援の充実に努めるとともに、利用者の民間施設・地域への移行の取組みの推進に努めること。</p>

<p>第三者評価におけるその他の意見</p>	<p>（第三者評価を実施した場合）</p> <p>○職員は改善に向け頑張っているので、管理者は先頭に立って職員を励まし続け、職員が希望をもって利用者のよりよい暮らしを支えられるよう努めること。</p> <p>○ロールプレイングは職員の理解を深める上で有効であり、既に一部実施しているが、研修時等での拡充を検討すること。</p> <p>○利用者の外出機会の確保等に努めていることはよいが、外出の目的（利用者の暮らしの楽しみ、他の施設や地域へ移行する上での試行的意味合い等）が支援員に共有されていないので、それぞれ異なる利用者個々のニーズの実現という目的に向け、どういった支援を行うのか、理解の共有を図ること。</p> <p>○勤務体制等を精査し、利用者の食事や入浴等の暮らしの時間割を、可能な限り一般家庭の生活時間に近づけることができないか検討すること。</p> <p>○保護者との関係強化に取り組んで連携も深まっているが、リーダー職員等のみでなく、広く職員が家族と関係を深められるよう取り組むこと。</p> <p>○満足度調査において、地域の福祉サービスや制度変更に関する情報提供に関する項目を充実させるなど、利用者・保護者が地域移行等について様々な検討を行える機会を提供できているか確認するよう努めること。</p> <p>○利用者（特に障害の重い利用者）の思いを汲み取って、意思決定支援の充実を図り、権利擁護の視点から、職員が利用者の代弁者としての役割も果たせるよう努めること。</p> <p>○言語での意思表示が困難な利用者を支援する施設としての特性を踏まえ、苦情解決制度を前向きに捉えて、実質的に活用できるよう運用面での創意・工夫に努めること。</p>
------------------------	---